# 第14回 香美市市民大学

8月25日から9月21日にかけて、第14回香美市市民大学が開催され、延べ652人の方が来場しました。

## 8/25 『考えよう、育てよう、思いやりの心』

落語家・教育評論家
桂 文喬（かつら ぶんきょう）さん

奥物部ふれあいプラザでの講演で、桂さんは何気ない言葉が相手を傷つけるということを理解し、相手の置かれている立場や状況を考えて話す『思いやり』を持たないといけない、というお話でした。

色々なエピソードなどを交え、分かりやすく、笑いありの講演をしてくださいました。講演の後半では、桂さんの体験を基にした落語を披露してくださいました。

## 8/31 『夢をかなえる生き方』

元プロテニスプレーヤー・スポーツコメンテーター
杉山 愛（すぎやま あい）さん

高知工科大学講堂での講演で、杉山さんは日々の生活の中で「楽しいことをする」ではなく「することを楽しむ」意味の**遊戯三昧**（ゆげざんまい）という言葉を大切にされているそうです。

また、質問コーナーでは、テニスをされている方や学生さんからの質問があり、丁寧に答えてくださいました。日ごろから一番心がけていることは、お世話になった方への感謝の気持ちを忘れないことと話されました。

## 9/21 『師匠が語る 藤井聡太という才能』

将棋棋士 八段
杉本 昌隆（すぎもと まさたか）さん

保健福祉センター香北での講演で杉本さんは、「将棋は読みの量よりも的確な大局観があればたくさん読まなくて良い」「試合後に内容についての対話は厳かにしますが、マイクやカメラがあると話しづらい」など、将棋の奥深いお話や裏話を楽しく話してくださいました。

また、弟子の藤井七段の将棋に対する姿勢や意識についてのお話や、将棋以外の人間像についてもエピソードを交えながらご紹介くださいました。





## 楠瀬慶太氏 平尾賞受賞記念講演会

9月22日に楠瀬慶太さんによる平尾賞受賞記念講演会が、**ものべ地域の屋号の成立と展開**を演題に、奥物部ふれあいプラザで行われました。

楠瀬さんは、物部町での聞き取り調査で集めた約800の屋号（家屋に付けられた呼び名）を分析し、これまで手付かずだった県内山村の屋号研究における方法論を提示したことが評価され、今回の受賞となりました。

講演会場では、楠瀬さんの言葉に逐一うなずく姿が多く見られ、質問する方が、物部町の関係者だけでなく、地区外の方も多くいたことが印象に残りました。

## 福祉避難所 開設・運営訓練

9月26日に福祉避難所の開設・運営訓練が、協定施設の養護・特別養護老人ホーム白寿荘で、行われました。

福祉避難所は、大規模災害発生後、高齢者や障害者の方など（要配慮者）が、一般避難所での生活に支障をきたし、特別な支援や配慮が必要となった場合、市の要請により開設される避難所です。

訓練では、施設職員、県や市の担当者や地域住民らが参加し、避難所の開設から要配慮者の受け入れまで一連の手順などを確認しました。

最後に、参加者たちは訓練を振り返り、意見交換を行っていました。

## 親子防災キッズチャレンジ

9月8日に**親子防災キッズチャレンジ**が、香美市香北体育センターで開催されました。

市立保育園の園児とその保護者を対象に、防災教育を交えた〇×クイズやスポーツチャンバラなどが行われ、参加者は防災について学びながらレクリエーションを楽しみました。

▲講師のスポーツＭＡＸ指導のもと、スポーツチャンバラを体験する園児たち。

## 祝100歳 これからも元気で

本年度、香美市では17人の方が100歳を迎えられました。

9月18日、19日と25日には、市長が100歳になられた方の自宅などを表敬訪問し、内閣総理大臣からの祝状と記念品、市からの祝い金を贈り、長寿を祝いました。

▲祝状を手にする小松藤子さん。親族の皆さんに囲まれ、にぎやかなお祝いとなりました。